

## 令和元年度 伊万里市立立花小学校 学校評価結果

<b>1 学校教育目標</b> たくましく心豊かな児童の育成	<b>2 本年度の重点目標</b> ①信頼される学校づくり ②学力向上推進と豊かでたくましい心身の育成 ③家庭・地域や関係機関との連携
-----------------------------------	--

達成度 A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
①信頼される学校づくり							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○特色ある学校づくり	教育目標(校訓)の周知徹底  楽しく安心して学べる学校環境づくり	・教育目標(校訓)を認知している児童の割合を95%以上、保護者の割合を70%以上にする。  ・靴並べ(靴そろえ)や傘並べ(傘まるめ)ができる児童を90%以上にする。  ・「算数コーナー」「英語コーナー」に興味を示す児童を80%以上にする。	・校訓「たちばな」を教室や廊下壁面に掲示し、目に触れる機会を多くする。 ・全校朝会や学校行事など機会あるごとに校訓を取り上げ、児童のがんばりや望ましい事例を紹介する。  ・「玄関は学校の顔」の意識を高め、靴並べや傘並べを年間を通じて計画的・継続的に指導していく。  ・算数科(活用力向上研究指定)・英語(H30年度研究協力校)教育に関して児童が興味をもてる環境づくりに努める。	B	・児童85%、保護者65%の認知度であった。昨年度と比較すると、児童は同程度、保護者は57%から上昇したものの目標値には届かなかった。校内掲示等で目に触れる機会を多くしてきているが、子供たちの行動や頑張り結び付ける機会をもっともつ必要があった。 ・95%の児童が「できている」と回答。学級の係活動として点検したこと、下校後の状態を担任が必ず点検し継続指導をしたこと、児童会の代表委員会で話し合い全校児童での取組を行ったことなどから実践に結び付いた。 ・「算数コーナー」は児童が操作して確認できるものを準備したこと、「英語コーナー」はEnglish timeと連動・関連させた内容を掲示したことで、児童の84%が興味を示していた。	・「校訓」を児童にも保護者にも一層意識させることができるよう、大きさや視覚効果を考えて掲示をする。目に触れる機会に加え、耳にする機会、声にする機会を増やす。  ・教員も児童も常に意識をもつように、計画的・継続的な指導と取組を行う。  ・階段や廊下にも広げている算数科掲示物等を更に活用しながら、算数科が生活の中で生かされていることを児童に実感させる。
学校運営	○危機管理	通学路の安全点検及び安全指導  食物アレルギー等への対応	・児童の事故・事件の発生ゼロを目指す。  ・学校給食による食物アレルギーでの事故を防ぐ。	・通学路安全点検を子ども目線で実施するとともに、子ども見守り隊との連携を密に図る。 ・交通教室や学級活動を通して、危機予測や危機回避の意識を高める。  ・食物アレルギーを持つ児童を把握し、教職員へ対応の周知徹底を図る。アナフィラキシー発症時の対応マニュアルを配付し、緊急事態に備える。	A	・見守り隊をはじめ地域の協力を得ながら、安全指導・通学路安全点検ができ、児童が安全に登下校できた。大きな事故とはならなかったが、登校中の歩行で1件、下校後の自転車乗りで2件、自動車接触事故があり、また、1年生の下校中の転倒けがも複数回あり、周囲を確認しての歩行や自転車運転の指導を繰り返し行った。 ・養護教諭と担任、級外職員、支援員との連携し、給食メニューのチェック、保護者への確認を毎日欠かさず行い、緊急事態に備えることができた。アナフィラキシー反応と思われることが15回あったが、関係職員で適切に対応することができた。	・児童の危機予測や危機回避の意識を高める交通教室や学習の充実を図る。 ・地域の関係団体との連携強化を継続的に図り、情報共有に努める。  ・緊急対応マニュアルを全職員が理解する。 ・緊急連絡の場合、保護者に確実に連絡が取れるよう第1連絡先を明確にしておく。 ・保護者及び医療機関と連携した対応を進める。
学校運営	○教職員の資質の向上	指導力の向上  サービス規律保持の徹底	・「規律指導の率先垂範」「校務の見直しへの努力」「学力向上への手立ての工夫」に関する教職員の取組意識を90%以上にする。  ・教職員の綱紀粛正とサービス規律の保持に努め、不祥事案の発生をゼロにする。	・授業等の終始時刻を厳守し、児童への規範指導を行う。 ・校内外の研修会などを通して、指導力の向上を目指す。  ・サービス規律の保持に関する県教委の通知文や新聞記事等を全職員に配付し、会議等の中で確認を行う。 ・報告・連絡・相談体制を徹底できるよう管理職が常に声を掛ける。学年主任を中心とした学年団での動きを推進し、相談しやすい雰囲気をつくる。	A	・「規律指導の率先垂範」97%、「校務の見直しへの努力」97%、「学力向上への手立ての工夫」100%と高い意識をもって取り組むことができた。児童の行動変容につながるよう、継続的に取り組む。 ・職員会議や職員連絡会で、必ず管理職からサービス規律の保持について触れるようにし、具体的な事例を示しながら教育公務員としての自覚を促した。 ・運転マナーや飲酒機会時の約束事などを定期的に職員間の話題にあげ、互いに声を掛け合うことができた。	・学習規律の確立と、学力向上を目指す、授業改善に継続して取り組む。  ・学年主任を中心とした学年経営を確立するとともに、職員間で積極的にコミュニケーションを図りながら、不祥事を生み出さない職員の雰囲気醸成する。
学校運営	●業務改善・教員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比10%削減する。	・各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようマネジメントを行う。 ・定時退勤日の確実な実施を行う。 ・会議時間の設定や資料の事前配布等を確実に行う。	B	・業務の平準化を図り、毎日の業務時間記録を残すことで、勤務時間を意識した業務遂行ができつつはあるものの、行事が重なる時期や学期末には業務量が増えることもあり、時間外勤務削減には直接つながらなかった。金曜日設定の定時退勤日に心掛ける職員は増えた。 ・会議資料の事前配布が定着し、会議時間も時間内で収まるようになってきている。	・学校行事の見直しや、改善できる業務を明確にし、教職員の「働き方改革」の意識を一層高める。 ・「働き方改革」「地域とともにある学校」について、保護者・地域への理解を図り、地域人材活用や業務改善を積極的に進める。 ・学年間、学年グループ間での連携を図り、優先順位を明確にした業務遂行をする。

②学力向上推進と豊かでたくましい心身の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	基礎基本の確実な定着  授業と家庭学習とのつながり  ICT利活用教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な学習習慣を身に付けさせ、基礎基本の定着を目指す。</li> <li>学習状況調査、全国標準学力テスト等で、県・全国平均以上を目指す。</li> <li>学力向上の取組について、保護者の理解度90%以上を目指す。</li> <li>ICT機器を利活用し、より分かりやすい授業の工夫改善に努める教師を75%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年共通した「話の聞き方」、「発表の仕方」、「ノートの取り方」などの基本的学習スタイルを定着させる。</li> <li>授業の中に自分の考えを伝え合う場を設定し、自分の考えを的確に表現できる児童を増やす。</li> <li>立花まなびだよりを通して、学習の様子を伝えるとともに、家庭学習の充実、生活習慣の定着について保護者の協力を得られるようにする。</li> <li>指導方法の工夫や改善、電子黒板等のICT機器の効果的な利活用により、学習意欲や学習理解を高める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「児童生徒の活用力向上研究指定」2年目の取組を充実させながら、算数タイムや放課後学習会を実施し、基礎基本の定着に全職員が努めた。</li> <li>学習状況調査、全国標準学力テスト等で、全国平均を上回ることはできなかったが、県平均を上回る学年が増えてきた。</li> <li>学力向上の取組について、保護者の理解度は95%であった。「立花まなびだより」を通して、家庭学習や学習時の約束について共通理解を図ることができた。</li> <li>校内LANとデジタル教科書が整備されたことにより、ICT機器を利活用機会が増え、分かりやすい授業の工夫改善に努めた教師が89%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話の聞き方」「発表の仕方」「学び合い・ふり返り」の視点の掲示、「算数用語」「説明用語」のカードを継続活用し、基礎基本の確実な定着を目指す。</li> <li>「立花型授業」の確実な実施で、自分の考えを書いたり、伝えたりすることが楽しいと感じる児童の割合を高める。</li> <li>研究授業の様子や、学習内容の系統性・学年間の関連なども伝え、保護者の理解・協力を得ていく。</li> <li>WEB上の教材を学年ごとに整備をすることで、効果的な教材提示に努める。</li> </ul>
教育活動	●心の教育	伊万里市「心の教育3セット」の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分を大切に、向上心と思いやりの気持ちをもって行動できる児童を80%以上とする。</li> <li>全学級、年1回以上の道徳授業を保護者・地域に公開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の学校生活に3セットを取り入れ、心豊かな児童を育てるための授業づくりや環境整備に努める。</li> <li>道徳の時間を要として全ての教育活動を通し、児童の自己有用感を育む指導を行う。</li> <li>ふれあい道徳の授業参観を開催し、保護者・地域に公開する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝の全校放送や学級の朝の会で「伊万里っこしぐさ」を読み、日常生活の場面でも取り上げて指導してきたことで87%の児童が「できる」と回答した。</li> <li>週1時間の道徳の時間を、学校行事等と関連させながら指導を行うことができた。</li> <li>7月の土曜授業日にふれあい道徳を実施し、75%の保護者の参観があった。地域の方々の参観者を増やす手立てをとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「心の教育3点セット」のうち、「いのちの教育指導資料」「伊万里市童謡歌集」の2点の活用を進める。</li> <li>他教科や総合的な学習、特別活動と関連させながら道徳の授業の充実を図る。</li> <li>保護者や地域の方々を講師として積極的に活用したり、保護者や参観者が授業に参加したりできるような工夫を行う。</li> </ul>
教育活動	●志を高める教育	夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童を80%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や学年行事の際に、めあてを立て、振り返りする時間を設定することを積み重ねた。88%の児童が夢や目標に向けて努力することができたと回答した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夢や目標について、具体的な行動まで考えさせる時間や場面を設ける。</li> </ul>
教育活動	●いじめ・不登校への対応	「いじめ」を許さない風土づくり  教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月生活状況の振り返りを行い、いじめ等児童の問題の早期発見に努める。</li> <li>家庭からの相談への適切な対応に対して、保護者からの満足度90%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SCやSSWとの連携を図りながら、教育相談週間を設けたり、「月のこころ」を書かせたりしながら早期発見に努める。</li> <li>家庭からの相談に迅速かつ丁寧に対応し、状況に応じて、ケース会議を開催する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめアンケートや、「月のこころ」の確認をしながら、いじめの早期発見・早期対応に努めた。いじめ認知時には、素早く関係職員での対応ができた。</li> <li>家庭からの相談への適切な対応について保護者から94%の評価を受けた。子どもたちの家庭環境や登校状況などに応じて、SCやSSW、他の関係機関につなぐことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめを許さない学級づくりを進めながらも、「いじめはいつでもどこでも起こり得る」の意識をもって児童の些細な言動や変容を見逃さず未然防止に努める。</li> <li>普段の児童の様子、登校や遅刻の状況などで気になる児童がいる場合には、複数の職員で情報を共有し、素早く対応する。</li> <li>保健室登校児童のケース会議を行い、職員間の連携強化を図りながら教室復帰を目指す。</li> </ul>
教育活動	○特別支援教育の充実	一人一人を大切にインクルーシブ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育について教職員、保護者への周知を図り、保護者への認知度60%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全家庭へ向けて、障がい児理解啓発に関する便りを発行する。</li> <li>年に2回以上、全職員に対して研修会を実施する。また、必要に応じて「気になる子への対応研修会」を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育の理解と実践に努めた教職員は94%。保護者への周知については、個別対応は丁寧にはできなかったものの、学校全体としての働きかけが十分にはできず、目標値に届かなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の研修会を今後も継続し、児童の学校適応に向けて、必要な内容を精選して行う。保護者への周知については、職員の共通理解を図り、取組方法を検討する。</li> </ul>
教育活動	●健康・体づくり	健康でたくましい身体の育成  食育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>規則正しい生活習慣を身に付けさせる。</li> <li>朝食摂取率90%以上を目指す。</li> <li>給食残菜を減らす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健だよりを通して、睡眠、食生活、規則正しい生活習慣の大切さを啓発していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健だよりや保健室前の掲示で意識を高めようとしてきたが、夜遅くまでゲームをしたり動画サイトを見たりしている児童が多く、保護者の協力を得ていくことが必要である。</li> <li>97%の児童が食事は大切と考えているものの、朝食摂取率は84%であり、保護者の理解を深めていく必要がある。</li> <li>給食残菜については学年・学級での差があり、給食を適量食べることの意識を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と家庭との協力で進められるよう育友会の「家庭教育宣言」の確認や情報モラル等の研修を促し、保護者の意識を高める。</li> <li>学級活動や家庭科の授業で取り上げ、朝食や給食の大切さについての理解を深める。</li> </ul>

③家庭・地域や関係機関との連携

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○地域とともにある学校	信頼関係の強化  家読活動の充実	・校外での問題行動発生ゼロを目指す。  ・家読に取り組む家庭を50%以上にする。	・学校便りや学年、学級通信を通して、教職員の思いを伝え、保護者の声を聞く機会をつくり、相互理解に努める。 ・地域の話し合いなどに参加し、地域との連携を図りながら、情報交換に努める。  ・親子読書、家読リレー、減テレビ・減ゲーム・家読週間などの取り組みを通して、家庭教育での読書の大切さを知らせ、「家読」を推進する。	B	・保護者や地域との連携に努めたことにより、校外での問題行動への対応は素早くできた。 ・地域からの情報は小さなことでも大切に対応してきたことで、問題行動は少しずつ減ってきている。しかし、地域での遊びの中で問題行動発生があり、ゼロにすることはできなかった。 ・SNSの問題が数件あり、早期対応、再発防止に努めた。保護者・地域と情報共有し、連携を図って対応していく必要がある。 ・1～4年生で家読リレーを実施し、該当学年の全ての家庭で親子読書を実施することができた。	・保護者や地域の声を聴く機会を多く作ってことで、問題行動の発生を抑える。また、それらを学校全体で共有していく。 ・見守り隊や地域の方とのふれ合いを大切に、常に情報を交換できるようにする。 ・小さな問題行動でも見逃さず、早期対応に努める。  ・「減テレビ・減ゲーム・減スマホ・家読運動」の取組を多くの家庭に広げる。
学校運営	○幼保小中連携	小中連携の具体化  幼保小連携の推進	・小中の情報交換や授業交流を計画的に実施する。  ・伊万里中学校校区4校の共通課題の実践化を図る。  ・幼稚園・保育園との情報交換を密にとり、現1年の現状報告をするともに年長・年中幼児の情報を早い段階より得ていく。	・合同の研修会や情報交換を年間3回以上実施し、生徒指導・学力向上の連携を強化する。 ・伊中校区3つの誓い「む(無言そうじ)・じ(時間を守る)・か(顔を見て聞く)」について指導の徹底を図る。 ・伊中に合わせ、各小学校でも「立腰」を導入して取り組む。  ・夏季休業中に保育参観や情報交換会を実施し、年長・年中園児の実態を把握し、校内体制を整えていく。	A	・伊万里中校区で研究指定を受け取り組んでいる校内研の授業公開、授業参観交流を行うことで、各校の取組や児童生徒の実態を見合うことができた。指導の参考にすることができた。 ・情報交換会を複数回もち、情報を共有することができた。 ・「無言そうじ」に力を入れて取り組み、定着してきた。 ・伊万里中の「2分前着席」につながるように「チャイム前着席」に取り組んでいるが、定着には至っていない。 ・関係保育園・幼稚園との連絡を密に取り合い、新1年生の情報収集に努めることができた。 ・新1年生が入学前に在籍する保育園・幼稚園の数が多くなり、情報の収集が段々と難しくなっている。	・授業参観交流を通じて、児童生徒理解を深め、指導の見直しや改善を行っていく。 ・複数回設定している情報交換会を、特定の教員の負担にならないよう回数や内容を吟味しながら、必要な回数については確実に実施する。 ・伊万里中の「2分前着席」につながる「チャイム前着席」と合わせ「チャイムと同時に立腰」に取り組む。授業に入る構えができるように指導の徹底を図る。  ・情報交換を早めに行い、学校の受け入れ態勢を整える。 ・園訪問を今後も計画的に実施していく中で、年長児だけでなく、年中児の情報も早めに集め、受け入れ環境づくりを進める。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・年度末実施の保護者アンケートでは、「学校教育方針・教育活動」「地域や保護者との連携」について肯定的な評価の割合が高く、一定の理解をいただいた。このことを大切にしながら、今後も教育活動を充実させていくようにしたい。

・特色ある教育活動をはじめ、教育相談体制の構築や学校行事の在り方など、工夫していく必要がある。保護者・地域に寄り添い、一層の連携・協働の推進を図り、新学習指導要領に示されている「社会に開かれた教育課程」「地域とともにある学校」につなげていくようにしたい。

・「児童生徒の活用力向上研究指定」の2年目で、授業改善に努めながら、算数タイムや放課後学習会など基礎・基本の定着、学力向上につながる取組を積み重ね研究の充実を図ってきた。ただ、成果指標としていた県学習状況調査の結果には、十分反映されておらず、更なる取組の継続と、学習規律・学習習慣の確立に力を入れていく必要がある。

・「働き方改革」を進めようとしているが、長時間勤務の解消にはなかなか結び付いていない。なぜ働き方改革を行うのかについての理解と納得感を高め、全体として学校業務を俯瞰して、スクラップ・アンド・ビルドを行っていく必要がある。「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」を踏まえた取組を推進する。

・支援や配慮を要する児童が増加傾向にあり、家庭との連携を密にしなが、SCやSSW、医療機関、関係機関とつながりを持ち、チーム学校として適切な対応ができるようにしていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目